

## 巻頭言

服部宗和 (新潟)

### 要旨

### キーワード :

この度、第 17 回日本アドラー心理学会総会において、会長職に就任いたしました。ご推薦いただいた理事諸氏、ご承認いただいた会員の方々の信頼に応えられるよう、役員そして会員の皆様方のご協力をいただきながら、職務を遂行して参る所存でございます。

さて、この会長人事は私にとって大変な驚きでしたので、会員の皆様にも簡単にその経緯をご説明いたします。理事の一人から会長推薦の打診メールをいただいたのは、総会開催まで 1 ヶ月を切った 9 月の下旬でした。メールを読んだ直後の心境を正直に告白しますと、実は驚くと同時に喜びました。このご依頼は、私にとって、敬愛する理事諸氏からいただいた究極の信頼表現であり、地道に続けてきた新潟での地域活動への賛辞でもあったからです。

しかし、少し落ち着いて考えてみると、アドラー心理学を学び始めてからまだ日も浅く、評議員経験もわずか一期の身では、たとえ私のライフスタイルが賛成しても、お断りするのが適切だろうと思われました。そこで、「悪口、陰口が大好きで品性に欠ける」など、会長適性に問題ありとして、固辞してみました。すると、間もなく「悪口、陰口が大好きで、品性に問題があるという自覚をお持ちなのもけっこう」と、勇気づけの言葉が返ってきたのです。

説得を決意したベテランカウンセラーの理事さんを逆説得する力は私にはまだない、とすぐにあきらめ、お引き受けしたという次第です。

そんな事情ですので、まず私の仕事は何よりも、会長職についてきちんと理解していくことであらうかと思えます。幸い梅崎前会長から、「会長公務とは、学会運営に関する事務的あるいは政治的職務」と教えていただきましたので、これから遭遇する具体的な課題について、一つ一つ丁寧に対応していくことで、問題処理能力を高めていきたいと思っております。

次に、言うまでもありませんが、野田初代会長から引き継がれている 3 つの基本路線

1. アドラー心理学の日常生活での実践重視
2. 非専門家による地域活動の重視
3. アドラー心理学の基礎理論の尊重

を今後も大切に維持して参りたいと思えます。

振り返ってみますと、私の本会との関わりは、3 年前に初めて総会 (東京) に参加した際、ここで議論されていることがまったく理解できず、当惑したことに始まります。以来、アドラー心理学そのものについて学び直しながら、地域活動を通じて、アドラー心理学ムーブメントに深く

関わっていくことになりました。

その中で体験したさまざまな出来事については、いささかの感慨がございます。

現在、日本アドラー心理学会の抱えている諸課題につきましては、今までの体験を活かし、会長としての立場で、注意深くその推移を見守りながら、解決に向けて貢献していきたいと思っております。

最後になりますが、西日本の皆様には、産声を上げたばかりの東日本の自助グループ、地方会への援助をぜひお願いしたいと思っております。また、東日本の皆様も、先輩に学ぶべく、西日本の自助グループや地方会へ参加されてみてはいかがでしょうか。私自身もまだカウンセリング修行中の身ですので、指導的な役割は果たせませんが、共に学ぶ仲間として、参加させていただこうと思っております。

新世紀を迎えたこの日本で、人類の英知である、アドラー心理学を普及・発展させていく事は、私たちアドレリアンの重大な責務であると考えます。

改めて皆様のご協力を何卒よろしくお願い申し上げます。

## 更新履歴

2012年12月1日 アドレリアン掲載号より転載